



北海道リユース 鉛をリサイクル 再生剤「ラスロンG」

札幌は、鉛バッテリーを再生し寿命を引き出す「ラスロンG」の道内販売を開始した。寿命切れと判断されたバッテリーの多くは、長期間使用で起きる硫酸鉛の結晶化による機能低下で、回復し、再利用を可能とする。また、充電は逆の方向で蓄電する。放電は理論上、水を注ぎ足すことで無限に反応させることで電気を取り出すことにより異なる現象を示す。

ラスロンGはこの現象を分解して硫酸鉛を回復し、バッテリーの性能を回復し、再利用を可能とする。また、充電は逆の方向で蓄電する。放電は理論上、水を注ぎ足すことで無限に反応させることで電気を取り出すことにより異なる現象を示す。

北海道リユースは、硫酸鉛が白色結晶化(サルフエーション)し電極に付着。硫酸鉛は電気を通さない性質を持つため、放電の効率が落ち寿命と判断され廃棄される場合が多い。10年程度が寿命と言われるオーバークリフト用バッテリーでも、実際は4~5年の使用で機能低下し、寿命と判断される。アフレイジ(本社・徳島)が開発したラスロンGは、長期間使用したバッテリー内で固形化した硫酸を電解液中に戻し比重を上昇。サルフエーションを分解し、電極を初期に近い状態に再生する。各セルにラスロンGを25~30cc添加し充電。2週間から1ヵ月で性能を取り戻すことが可能だ。

道内ではこれまで、大手食品業者のオーバークリフトや建設機械、農業機械のバッテリーをはじめ、札幌市内のホテルで非常用大型バッテリーに採用された。現在在バス会社などでもテストを進めている。

再生価格はバッテリー容積や種別により異なるが、自動車用で数百円から8千円程度。ホテルの大型バッテリーでは設備更新の3割程度のコストで機能を再生したという。道リユースは「新品を購入するのに比べコストを大幅に削減できる」と説明する。詳細は同社のホームページ(<http://www.just.st/7123518>)で紹介している。

また、民間企業の定年退職者を中心に、ラスロンGの販売などバッテリーサイクルシステムを運用する会社の設立支援も進め、道内のバッテリーサイクルを促進させる考え。幹部和浩社長は「鉛バッテリーは、鉛や硫酸などを含み廃棄処理が難しい。コストと環境負荷の低減につなげたい」と話している。

△問い合わせ先 北海道リユース、☎011(801)5866